

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」令和3年度学園だより

とう 雲 稲 雲

第15号

令和3年12月13日発行

発行者：校長 小貫 崇明



○2学期まとめの授業参観

12月10日（金）は、2学期最後となる授業参観を実施いたしました。今まではコロナ禍のため時間差を設定するなど密にならないよう配慮してきましたが、今回は時間差を設けず、受付での体温確認による入場制限のみで実施いたしました。また、6年生以上の学年では、次年度や進路決定に向けての話題を中心に懇談会を実施しました。 8年生「箏の授業」⇒



1年生「ものの名前集め」



2年生「正直なところで」



3年生「松明あかしの発表」



4年生「福島の伝統工芸」



5年生「なぜピカソは？」



6年生「プロジェクトの発表」



7年生「バスケットボール」



9年生「篆刻(てんこく)」

○牛乳で 今日のスイッチ 入れる朝

『稲雲第15号』でもお伝えしていましたが、作文コンクール等での最優秀賞獲得など、素晴らしいニュースが続いています。

12月3日（金）には、本校校長室にて7年の●●●さんが、福島県牛乳普及協会会長様より直接、第1回牛乳標語・川柳コンクール中1の部の「最優秀賞」の賞状をいただきました。「牛乳で 今日のスイッチ 入れる朝」という作品は、牛乳を飲むということだけでなく、朝ごはんをとることで元気よく一日を過ごすことができるという、食育としても意味のある標語になっています。



また、読売新聞社主催「小・中学校作文コンクール」の県審査で1位だった6年生●●●●さんは、全国審査（ネットによるリモート大会）で3位相当の「JR賞」を受賞しました。賞状等が届きましたら、また紹介いたします。

○地域のために、将来の自分のためにボランティア

12月7日（火）、令和3年度の稲田地域ジュニアボランティア養成講座の閉講式を稲田学園で行いました。稲田公民館長さんからは、「コロナ禍での生徒たちのボランティア活動に対して、地域の高齢者の方が『ありがとない。』といって喜んでくれました。」と感謝のあいさつをいただきました。また、参加した生徒に対して、記念品が館長さんから一人一人に贈呈されました。



生徒たちからは、「誰かのために役立つことができよかった。」「来年もボランティアに参加したい。」「将来も誰かのために役立つ仕事をしたい。」などの感想が述べられました。

○栄養戦隊が子どもたちのからだを守ります！

12月8日（水）、食育の一環として、1・2年生の「好き嫌いは、どうしていけないのか」という授業を実施しました。

今回の授業はヒーロー戦隊ショー仕立てで、まず子どもたちに自分の好きなものばかりを食べさせ体を破壊してしまう「ハカイダー」とその子分「貧血ちゃん」の2人が登場し、子ども達に「好きなものだけ、たべればいいんだよ！」「野菜も嫌い、魚も豆も大嫌い、なんで牛乳なんて飲まなくちゃいけないの」とそそのかします。

しかし、そこに栄養戦隊の3人が登場し、熱や力になる食べ物、体を作る食べ物、体の調子を整える食べ物の大切さを教えてくれました。子どもたち全員に出題されたクイズに全員が正解し、ハカイダーと貧血ちゃんはたまらず退散してしまいました。

子ども達は、楽しみながら「残さず食べること」「苦手なものも一口食べること」等を学ぶことができました。なお悪役の2人、そして栄養戦隊の3人は一体だれなのかは秘密です（笑）。



★言葉と生きる(15) 「死ぬな。絶対死ぬな。」

ずいぶん時間が経過してしまいましたが、10月に実施した稲田学園の『秋華祭』では、飛び入りでコントラバスの演奏をさせていただきました。その時に演奏した「情熱大陸」の作曲者でバイオリニストの葉加瀬太郎さんが、新聞のインタビューで子どもたちに向けて語ったのが、今日紹介する言葉です。

葉加瀬さんは子どもたちに向けて、「悩むだろうけど、初めに言わないといけないことは、死ぬな。絶対死ぬな。これからいろんな楽しいことがある。めちゃくちゃ面白い人生が待っている。とにかく自分の好きなことに没頭したほうがいい。（中略）迷うならやろう。険しい道でも絶対に面白いことがあるから、行った方がいい。人生は一度しかないから。」と語っています。

軽快な曲を笑顔で演奏する葉加瀬さんにも、死にたいくらい辛いことがあったのでしょうか。その辛さや険しさの先に見つけた光だからこそ、葉加瀬さんの音楽は輝いているのです。